

November 2015 subject reports

Japanese A: literature

Overall grade boundaries

Higher level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 18	19 - 33	34 - 45	46 - 57	58 - 70	71 - 83	84 - 100

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 16	17 - 30	31 - 43	44 - 56	57 - 68	69 - 81	82 - 100

Higher level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 5	6 - 10	11 - 13	14 - 17	18 - 21	22 - 25	26 - 30

提出された成果物の特徴および適切さ

すべての対象作品は「指定作家リスト」(PLA)に記載の著者による詩の中から選択されていました。今回提出されたサンプルのほとんどは、質、レベルの幅ともに適切でした。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A

受験者の多くは詩の解釈を通じて適切な知識と理解があることを示していました。しかし、紙上に現れている言葉、表現を表面的な意味のみで行毎に言い換えただけの受験者もいました。

規準 B

大半の受験者は、この規準においてある程度の力があることを示していました。しかし、作者の使用した修辞法をただ特定するだけで、それらがどのような意味を形成しているかについての考察に欠けた受験者もいました。

規準 C

受験者の多くは論評を構成する力を発揮できていました。しかし、詩に関する理解は示せても、それを、一貫性があり理路整然とした論評として述べることができない受験者もいました。

規準 D

ディスカッションにおいて、多くの受験者は作品に対する知識と理解をよく示していました。教師の受験者への質問の内容、ディスカッションの進め方に関しては、学校間の差が目立ちました。教師、受験者共によく準備したことがわかる優れたディスカッションもありました。

規準 E

多くの受験者は、ディスカッションでの問いかけに対する答えを自分自身でよく考え、作品に対する知識と理解を示すことができていました。また、教師の質問も作品とよく関連づけられていました。

規準 F

ほとんどの場合において、受験者の言語は明確で、語彙や言葉遣いも適切に選択されていました。しかし、口述試験に必要な言語の基礎力が不足していると考えられるコメントリーも見受けられました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

個人口述コメントリーでは少なくとも 2 分間の質疑応答の時間をとるようにしてください。また、受験者の話が 8 分に達しなかった場合、残りを質疑応答にあて、全体を 10 分にしなければなりません。「考察を促す問い」(guiding questions) は、生徒の分析に役立つようなものにする必要があります。1) 知識と理解、2) 作者の用いた修辞法の使い方に焦点を当てるのも一案でしょう。「考察を促す問い」が 4 つというケースもありました。問いは 1 つまたは 2 つでなければなりません。「考察を促す問い」については IB 資料『「言語 A : 文学」指導の手引き』の 79 ページをよく読んでおくようにしてください。また、教師用参考資料にも「考察を促す問い」の例が収載されています。

抜粋の長さに関しては、20~30 行とするべきです。今回の試験で短い詩を選んだ学校がありました。比較的短い詩を選ぶ場合は、受験者にとってコメントするのに十分な内容のある詩を選ぶことが肝要です。また、同じ学校において複数の教師が採点を行っている場合に、教師によって採点の基準が異なるケースが見受けられました。複数の教師が内部評価を採点する際には、学校内のモデレーション(評価の適正化)を必ず行うようにしてください (IB 資料『DP 手順ハンドブック』参照)。また、指導の手引き内の評価規準をもう一度熟読するようにしてください。

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 12	13 - 16	17 - 19	20 - 23	24 - 30

Higher level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 6	7 - 9	10 - 12	13 - 15	16 - 18	19 - 20	21 - 25

提出された成果物の特徴および適切さ

今回は初めてのオンラインでの記述課題 (written assignment) の提出となりましたが、事務的なミスはほとんどありませんでした。ただ、昨年よりも改善されたとはいえ、まだ「振り返りの記述」(reflective statement) の役割が明確にされていないというケースも目立ちました。

テーマはかなり変化に富んでいて、適切なものが多くありました。しかし一部には、トピックが広すぎるために字数制限内で扱うには難しく、結果的に分析も浅くなり、結論も曖昧になっている論文も見受けられました。

言語レベルは概ね安定していて、HL に相応しいものでしたが、一部には常体と敬体の混用なども見られました。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A：昨年よりも安定したレベルのものが多かったのですが、まだ「振り返りの記述」の役割が明確になっていないと思われるケースがかなりありました。「対話形式の口述活動」(interactive oral) の内容を網羅するだけでは不十分なのはもちろんですが、自分の考えがただ単に「変わった」とするのも不十分です。求められているのは「対話形式の口述活動」を通して、作品の文化的および文脈的な要素に対する自己の考えがどのように「発展」したかです。この部分を明確にしないと、最高点には届きません。

規準 B：この規準の内容に関しては、比較的良くできています。扱っている文学作品の内容を良く理解し、知識も適切であることが示されています。

規準 C：個人差もありますが、それよりも学校間の差が目立ちます。作家の技法についてきちんと認識していて、それを分析に取り入れている受験者と、ほとんど認識せずに論じている者の両極端が見られました。これは今後の指導における重要な課題であると思われます。

規準 D：ほとんどの論文がきちんと注を付けています。しかし一部には、全く注を付けていないものも見られました。また、直接引用（鉤括弧を付けて引用）には注を付けていても、間接引用（鉤括弧無しの引用）までしっかりと注を付けている論文は少数です。注の付け方は減点対象にはなりません。丁寧な論文の書き方を指導する上で、配慮が必要です。全体の構成については、ほとんどのものが序論・本論・結論の構成になっていて、大きな問題はありませんでした。

規準 E：全員がパソコンを使用しているため、漢字のミス等はありません。もちろん使用している語彙レベルには個人差が見られました。またパソコンを使用することによる「同音異義語」のミスも頻繁に見られます。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

まず重要なのは「記述課題」として求められているものを明確に把握することです。特に「振り返りの記述」の目的と理想の形等について詳しく生徒に説明してください。また、トピックの設定も非常に大切です。「教師の監督下での記述活動」(supervised writing) では多少広めのプロンプトを出題しておいて、最終論文のトピック設定の時点で、それを絞っていくのが良いでしょう。その時に十分に生徒と話し合ってください。

普段から論文作成に慣れておく必要もあります。論文の書き方を説明するだけでなく、実際に何かのトピックで論文を作成する練習をするのが有効です。その際に、作品からの引用の方法や、間接引用を含めた注の付け方等を指導すると良いでしょう。

文学の論文を書くのに相応しい語彙をどのように習得するかも、工夫して欲しいところです。漢字のテスト等を実施するのも良いですが、質の良い文学評論等を読む機会を作り、そこから語彙を学んで使う練習をすると効果的です。

Standard level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 6	7 - 9	10 - 12	13 - 15	16 - 18	19 - 20	21 - 25

Higher level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
---------------	---	---	---	---	---	---	---

Mark range: 0 - 3 4 - 6 7 - 9 10 - 11 12 - 14 15 - 17 18 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

多くの受験者はこの試験に対して良く準備しており、良い成果をあげることができていました。しかし、受験者によっては、課題文の内容を理解することはできても、作者が使用している言語または状況設定を熟考、分析して深い解釈をすることは難しかったようです。

散文の抜粋文において、全体の内容と最後の文章の関係、およびその重要性についての解釈を述べた受験者は少数でした。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

多くの解答はレベルの高い内容になっていました。十分な学習と準備をしてきた成果が出ていました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

今回の課題文である散文、詩ともに受験者にとって理解しやすかったようです。

受験者の60%が詩を選びました。高い評点を得た受験者は、作者が用いた構成の工夫、修辞法が詩全体に及ぼす効果を論じていました。一方で、一般常識的に理解した言葉や表現を行毎に説明しただけの答案も見受けられました。

散文の場合、論評は効果的に構成され、作者の言葉や技法の選択についても非常に優れた分析や認識が示されていました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

受験者には多種多様なテキストを読むことを奨励し、授業中に内容を分析して話し合う機会をできるだけ多く設けると良いでしょう。過去に出題された課題文を使って論評を書く練習を繰り返すことが必要です。

特に詩の場合、詩に使われている比喩、メタファー（隠喩）がどのような役割を果たしているかを見抜く練習が必要です。

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 8	9 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 20

Higher level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 21	22 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

全体的に大きな問題はありませんでした。ただ難しかったのは、テーマに対して明確に答えることです。論の中で作品について詳しい説明ができて、それを問題の解答にきちんと結びつけないと、高得点は望めません。そこができていない答案がありました。

また一部の受験者は、文学の論文を書くことに慣れていないようです。言語表現に関しては、敬体と常体の混用が見られたり、語彙のレベルの低さが目立ったりしました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

授業で学んだ作品の理解は良くできていました。作品の内容のみならず、作家の背景や作品の歴史的・社会的背景等にも深い理解が見られました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

設問 1：「技法」の解釈はかなり自由にできるはずですが、多くの受験者がよく見られるレトリック（比喩、時間の流れ、構成等）に関してのみ分析していました。それによって作者の「独自のスタイル」を論じていましたが、「影響や効果」まできちんと論じた答案は少なかったです。また、よく見られるレトリック以外の特徴的な技法を分析した答案もあまりありませんでした。

設問 2：明快な答案が多く、良くできていました。ただ全員が「エピソードを挿入した作品」のみを論じて、「エピソードがない作品」を論じた者はいませんでした。

設問 3：登場人物が属している「社会」の選択に関し、意義と効果を解説することが求められている問題です。「社会」についての解説は良くできていましたが、その選択の意義と効果については、あまり論じられていませんでした。また、「社会」の定義が曖昧な場合もありましたし、「社会」ではなく「時代」について論じていた答案もありました。

設問 4：解答者なし

設問 5：解答者なし

設問 6：解答者なし

設問 7：解答者なし

設問 8：明快な問いで一目簡単に見えたかもしれませんが、短歌を例に挙げた場合、解説する短歌の選択が適切ではないと、結論に力がなくなっていました。選択が適切だった場合は、明快な結論が導かれていました。

設問 9：解答者なし

設問 10：解答者なし

設問 11：解答者なし

設問 12：解答者なし

今後の指導に関する提案およびアドバイス

受験者の力量は個人差よりも学校差が目立ちます。これは、こういった小論文の練習をしっかりと行っている学校とそうではない学校の間差によるものだと思います。したがって、普段の授業において、過去の試験問題等を活用しながら、演習を繰り返すことが大切です。

作品を学んでいくときには、過去に良く出ている問題を意識して、それが出題されたら作品からどのような例を出し、どのように論じるかということを授業で議論していくと、実践的な準備ができます。

基本的な漢字はきちんと書けるようにすることが重要です。授業において漢字のテストを実施するなどの対策を取ると良いでしょう。

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 21	22 - 25